

# 地域と学ぼう

山形大学地域教育文化学部

現代社会において、コンピュータは人々の生活に密着し、なくてはならないものとなっています。パソコンやスマートフォンはもちろん、テレビや電子レンジなどの家電製品にもコンピュータは組み込まれ、私たちの目に見えないところで働き続けています。

私の研究室では、そのコンピュータの能力の限界を突き止め、効率よく働かせるための研究を行っています。研究活動を行う上で、学生たちには「常に100%を目指すように」と指導しています。人間がコンピュータに対して指示を出す際（プログラミングと呼べれます）、少しでも曖昧な内容が含まれると、思いもよらない動作につながる可能性があります。実際のところ、これで十分だろうと80%の出来で指示を出したのでは、ほとんどの場合においてでたらめな動きしかしてくれません。

## 計算機科学 中西 正樹 准教授

これは、何もコンピュータを扱うことのみに限らず、大学におけるさまざまな学習にも当てはまりま

ころ、これで十分だろうと80%の出来で指示を出したのでは、ほとんどの場合においてでたらめな動きしかしてくれません。

これは、何もコンピュータを扱うことのみに限らず、大学におけるさまざまな学習にも当てはまりま

す。通常、大学の成績は80点以上でA評価が与えられますが、80点に満足せず、残りの20点を埋めることが本当の理解につながるわけです。この残り20%の大切さを研究指導を通して少しでも伝えることができればと日々、試行錯誤している

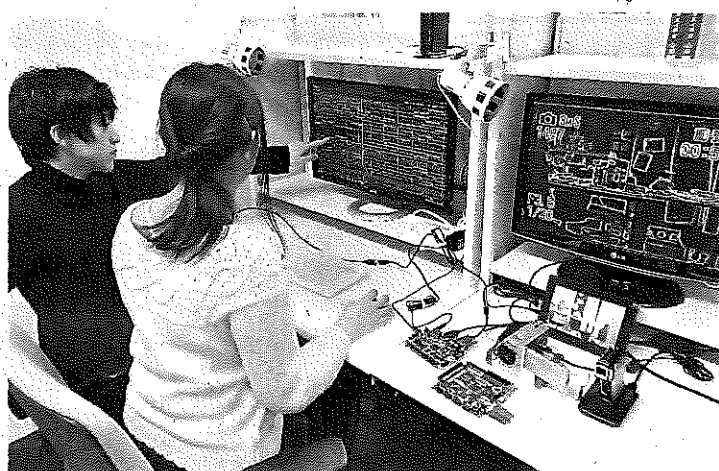
ところが、私が山形大に赴任して8年がたち、それなりの人数の学生を社会に送り出してきました。山形県内にも多くの学生が就職しています。情報系の研究室出身の学生はIT企業に多く就職すると思われがちですが、

### 「常に100%」目指して指導

(少なくとも私の研究室では)必ずしもそうではありません。IT企業以外にも金融や公務員などさまざまな分野に進んでいます。80%を100%にする力が分野を問わず求められていることの表れとも言えるでしょう。卒業生たちが100%の力で山形県を元気にしてくれることを願っています。11月1回掲載します



▽1973年、大阪府出身。山形大着任は2009年。



学生が取り組む画像処理回路実習の様子  
山形市・山形大小川キャンパス